



部活動紹介



男子バスケットボール部

四年二組 山田 楓大

私達男子バスケットボール部は、学年関係なく、コミュニケーションがとれるチームです。また、自分の力を伸ばすために練習に励んでいます。

目指しているチームは、いつでも一人一人が意識を高くもち、高め合う雰囲気のあるチームです。そのため自主性をもって活動することを大切にしていきます。本校は、他校に比べ時間も場所も限られているので、練習中積極的に声を掛け合い、アドバイスし合うことで自分の改善点を明確にすることに繋がっています。また、後輩が先輩にルールや技術、態度について聞く場面も多く見られ、日々選手として成長することができています。

チームの目標や課題を把握、共有するために休日の練習前にミーティングを行っています。目標の達成、課題の克服に向けて練習メニューを考え、意見交換をし、ホワイトボードに書き入れていくことでチームの方向性を統一しています。また、ミーティングを通して、一人一人のモチベーションが上がり、個人の活動にも繋がっていると考えています。

これからも仲間達とプレーできることを誇りに思い、支えてくださる全ての方々への感謝を忘れず、一つでも多くの試合で勝てるようこれからも練習を行っていききたいです。

女子バスケットボール部

五年一組 中山 亜李璃

私たち女子バスケットボール部は、前期生十名、後期生五名で学年の間に壁も無く部員全員が上下一心に練習に取り組んでいます。

練習時間がかかり限られているため、部活動中は全力でひたむきにプレーする、部員みんなが互いに高め合う、前向きな声掛けをするなどして質が高く、試合を意識した練習を心がけています。また、練習の中でも互いの良かったところ、改善した方が良いところなどを教えあい、いかに試合での勝利につなげられるか考えて活動しています。

現在の状況では、いつ試合ができるのか分からず、目標がいまちはっきりしないこともあります。しかし、活動を支えてくれて、一生懸命指導して下さる顧問の先生方や、保護者への感謝を胸に、練習できる一日を大切にし、チーム一丸となって励んでいきたいです。



サッカー部について

五年二組 川崎 士結

現在私たちサッカー部は前期生二十名、後期生七名の二十七名で活動しています。普段は筋トレや体幹などの体づくりや、バスやドリブルなどの基礎的な練習からポゼッションや試合形式での練習など、個人の技術やチームの連携の向上を目指し日々練習しています。

今年度は昨年度よりも試合数が多く、実戦経験を多く積むことができました。また前期生は人数が多く、モチベーションも高いので、新人大会で準優勝という結果を残すことができ、来年以降もとても期待しています。

サッカー部の良いところは先輩と後輩との間に壁がほとんどなく、コミュニケーションをうまくとることができ、明るい部活であることだと思っています。しかしここ最近では、楽しむことに重きを置き過ぎていいのか、集合をかけても、ふざけていてなかなか来なかったり、部員が話しているときに別のことをして聞いていないという行動が見られるようになりました。楽しくやることは大切ですが、一人一人が何をすべきかを考えながら日々の部活に取り組んでいってほしいと思います。

来年度は、少しでも多くの試合に勝てるように、適度な緊張感をもって部活動に励んでいきたいと思っています。

テニス部

五年一組 浅野 拓翔

今年度のテニス部は長期のコロナ休暇明けということもあり例年よりも酷い有様の状態のテニスコートを整備することから始まりました。新しく入部した一年生が加わり早い段階で元の状態へと回復することが出来ました。

普段の練習では部員皆が積極的に動いてくれたおかげで円滑に活動ができましたが、あまりコミュニケーションがとれていなかったせいか指示が伝わっていないことがよくありました。この事を反省点にし、来年度は後期生は前期生に指示が伝わるよう工夫して、練習の量と質をよりよいものにしていきたいと思います。

最近、再びコロナが流行しており、練習のできない期間が続いています。一刻も早く収束して大会が開催されることを祈るばかりです。

陸上部について

五年二組 安藤 大殊

今年度、陸上部ではただ走るだけでなく、他の競技を行いながら活動をしてきました。平日の部活では短距離、中長距離の二つに分かれ、それぞれのトレーニングを行ってきました。外を使える時期では、短距離はグラウンド、学校前の歩道を使い、中長距離は三キロメートルや五キロメートルなどの校外を一周するコースを走り鍛えてきました。また冬期の練習では、特別棟を活用した階段ダッシュのような中でしか出来ない練習をしてきました。休日の練習では、いつも走ってウォームアップするところをバスケやサッカーなど毎日の練習ではしないような動きを含めたスポーツで行っていました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、活動中における制限や部活動の中止など思い通りに活動できなかったことの方が多くあったと思います。しかし、走れない日はウエイトトレーニングを行うなどそれぞれがその時でできることを見つけ活動してきました。大会も少なく、自分の努力を実際のタイムのような形で結果として実感することがあまりできない中で、各々が目標を定め、自分にとっての課題を一つずつ達成するように活動してきました。これからも新型コロナウイルスの影響で苦しい日々が続くと思いますが、それぞれのタイム向上に努めていきます。

ダンス部

五年一組 天井 渚紗

私たちダンス部は、「大会で賞を取る」ことを大きな目標に一人一人が熱意を持ち、日々の活動に励んでいます。また、今年度も多くの一年生が入部し、学年の枠を超えて仲良く楽しみながら活動してきました。

今年度は新たな取り組みとして「ダンスノート」を作り、部員それぞれが日々を振り返って課題を見つけ、克服できるよう努力しました。また、校内発表をして人前になる経験を積むなどして技術力と精神力の向上に努めました。ダンス部全体が成長できたと感じられる良い活動ができたと思います。

また、今年は二十周年記念式典という大きな舞台に立つことができ、全校生徒だけではなく、外部の方にも作品を見ていただくという貴重な経験ができ、とても嬉しかったです。

今年度も多くの方々を支えていただきました。来年度も感謝の気持ち忘れず、部員同士で切磋琢磨しながら新しいことに挑戦していきたいです。今後ともダンス部の応援をよろしくお願いします。

バレーボール部について

五年二組 澤 晴子

私達は、新しい体制になって以降、練習方法やチームのあり方を見つめ直し、三つのことを意識して取り組んできました。

一つ目は、目標を明確にし、チームで共有することです。具体的な目標を定め共有することによって、自分達に何が必要か、何をすべきかが明らかになり、練習の質の向上や、モチベーションの維持につながっています。

二つ目は、PDCAサイクルを回すことです。毎回、試合後にミーティングで成果や課題を共有し、改善のための練習を行ってから次の試合に臨んでいます。自分達で試行錯誤していくことで、チームの成長を日々実感できるようにしました。

三つ目は、細部にこだわることです。更衣室や用具室の整理整頓、靴や荷物の並べ方、挨拶など、常に細部に意識を配るよう心がけています。

これらの取り組みにより、確実にチームの力を上げ、後期生は創部以来初となる、選手権県大会への出場を果たしました。さらなるレベルアップを目指し、春に向けて、前期生は県大会出場、後期生は県総体三回戦進出を目標に、練習に励んでいます。

卓球部

五年一組 鈴木 陸

今年度の卓球部では、短期間でも集中して練習する事を目標に、部活動を行いました。コロナ禍により、前期生と後期生が一緒に練習する機会は休日のみで、さらに平日は前期生後期生ともに、一時間程の練習時間しかありませんでした。そのため、平日は決まった練習メニューを日替わりで行うことで「自らの弱点を見つけて、自ら改善するようにしました。特に、基本のラリーメニューを増やす事で、上手く出来ない動作の原因を考え直すようにしました。また、休日部活では、試合を多く行い、後期生が前期生へアドバイスをするようにし、部員全員での技術向上を目指しました。

しかし、技術向上を目指し過ぎるあまり、楽しい部活には出来ず、春よりも部活に来る人が少なくなっていました。来年度は、楽しさも追求していきたいです。

部活動を支える先生方、各部員の保護者の方々、卓球部の一員として努力してくれた部員の皆さん、全ての方に感謝しています。

バドミントン部について

五年二組 富樫 叶大

私たちバドミントン部の今年度の活動目標は楽しく厳しい練習をするというものでした。部員全員が積極的に練習に取り組めるよう、さまざまな練習を競争形式にするなど、工夫して部活動に取り組みました。しかし、今年度もまた、新型コロナウイルスの影響で参加できる大会が著しく減少すると同時に、他校との合同練習なども無くなってしまいました。そのため、部員の練習に対するモチベーションも下がらざるをえませんでした。大会や他校との練習は、経験が積めるだけでなく、とてもよい刺激になります。そのため、私たちは練習の中に試合形式のものを多く取り入れました。大会同様に椅子や得点板を設置し、大会のような雰囲気を作り、その中で試合を行うというものです。大会のような緊張感を作ることはとても難しいですが、一本一本を大切に試合を行っている部員たちの姿を見受けることが出来ました。このような練習は部員にとって良い効果がありました。身内だけで行う練習には限界があると思いますが、今後も有意義な練習が出来るように、互いに切磋琢磨していけるような雰囲気作りを心がけ練習に励んでいきたいと思えます。

華道部の一年間を振り返って

五年二組 佐藤 天音

私たち華道部は、月に一度、外部講師の木村先生のご指導の下、季節の花を生けています。月に一度の活動なので、他の部活動と兼部している人もいます。花が好きだという共通点がありますが、普段の学校生活で頑張っていること、もう一方の部活動で取り組んでいることはそれぞれです。様々な性格の人と交流できることが華道部の良いところだと思います。

華道部は今年度、二十周年記念六碧祭と新潟県高等学校総合文化祭の高校いけばな展で作品を展示しました。二年ぶりに大きなイベントに作品を展示し、多くの人に作品を見ていただく機会を得られてとても嬉しかったです。多くの人が作品を見ると、花を生ける私たちの気がいつも以上に引き締まりました。普段の部活動では味わえない緊張感と高揚感の中で花を生けたことは、華道部全員にとって良い経験だったと思えます。

今年度は部員同士の距離がぐっと縮まり、より楽しく活動ができました。これからも部員同士の挨拶やコミュニケーションをとることを忘れずに、楽しく花を生けていきたいです。

箏曲部

五年一組 樋木 みなみ

昨年度と同様、今年度も新型コロナウイルスの影響を受け、発表する機会が限られてしまいました。前期生は、発表する機会が少ない中、多くの難しい曲に挑戦しました。息を合わせて演奏ができるよう、練習では工夫を重ねました。

後期生は、大会に向けて、曲から物語を想像し、演奏で伝わるように何度も工夫し練習しました。九月に行われた新潟県高等学校総合文化祭日本音楽演奏発表会では、四年連続となる優秀賞をいただきました。

また、十月に行われた二十周年記念六碧祭では、部員全員で演奏することができました。

今年度の活動では、発表の機会がないという悲しみや苦しみを感じるとともに、発表することができるといふ喜びを改めて感じる事ができました。これからも、多くの人に美しい箏の音色を届けることができるよう、日々の練習を頑張っていきたいと思えます。

マンガ部について

五年二組 瀬賀 陽和

私たちマンガ部は、月・水・金曜日の週三回、美術室で活動しています。主な活動内容としては、最初にくじを引きその日に描くお題を決め、そのお題にそった絵を描きます。他の部活動より部員こそ少ないですが、その分学年の壁を越えてみんな仲良くアットホームな雰囲気です。お互いに好きなアニメやマンガのキャラクターなどの話をしながら楽しく絵を描いています。先輩も後輩も絵が上手くて、みんなアドバイスをし合い、ほめ合いながら活動しています。今年度は、新型コロナウイルスの影響で、部活動が中止になったり、六碧祭の中止にともない、部誌の発行ができなくなったりしました。それでも部員全員が楽しんで活動することができてよかったと思います。来年は新型コロナウイルスが収まり、六碧祭などのいろいろな活動を再開できるように願っています。

囲碁将棋部について

五年一組 本保 由輝

私たち囲碁将棋部は、後期生六名、前期生十三名で活動しています。昨年度と同様に我々の部活も新型コロナウイルスの影響を受け活動時間の制限を余儀なくされました。その他にも対局の際のビニール手袋の着用、駒や道具などの消毒の徹底などといった例年とは異なる面で気を遣わなければならぬ大変な一年だったと思います。練習試合や公式戦なども今年はお場することができず、部員の各々の力を発揮する機会が少なく、部としての活動を思うように行うことができませんでした。

このような状況を踏まえて来年は部員一人一人の意識を高め合い、より充実した活動を行えるように励んでいきたいと思えます。

また、六碧祭や大会などの行事が通常通り行われ、学校全体の活動がうまく実行できることを心から願っています。

合唱部

四年二組 増子 きよら

「みんなで仲良く活動しよう。」と合唱部を指導してくださっている日下先生から声を掛けられてスタートした一年。私たちは団結力のある部活に成長することができました。

ウイルス禍で例年よりも発表をする機会が減少してしまい、部活全体としてのやる気が低下してしまいう時期もありました。しかし、自分たちで目標を決め、改善点を積極的に話し合うようになったことで向上心が生まれ、高い目標をもって練習することができました。発表する場をいただけただけには、一つ一つの機会を大切にして練習に励むことができました。

今まで私たちは練習において、音を正確にとることを重要視してきましたが、それ以上に「人に伝えること」が大切だと気が付きました。それは、合唱を聴いてくださった方から「感動したよ。」と聞いていただいたことがきっかけです。自分たちの歌で人を感動させることができるとは思ってもいなかったので大きな自信となりました。

これからは技術はもちろんのこと、人に感動してもらえるパワーのある合唱を目指したいです。合唱ができることに感謝し、日々成長できるように頑張ります。